『國民新報』1940年4月14日

基本禮儀　――青筋を立てる必要なし――[[1]](#footnote-1)

しいといはれることは、にしいことである。は そのをらせ、らせるものである。ことに にするにいてりである。は をんずるであるが、らぬのでは だ未だにだとはいはれない。

　のは にのをすることであるが、そのとなるものは『ありがたう』、『どうぞおに』、『みませぬ』で きる。しかして、このを ばかりでなく、とととをはせて はすことをとづけるものである、かゝるけでさへけば、のへつても しいとはれることであらう。

　からをへばず『ありがたう』といふとに おをする。ばかりではない、したことをしてつてもすることをれてはならない。のを りすることはでない。ずのを ふべきである。ならば 、ならば、すべきである。などで、をぎ などくはへて、をくがきに しきりで、おがれると へよう。洋はおのにあへば、ずを するのであるが、つてほしい ものである、などで、のしきものゝへるのに のをんでるものがある。そのが れないではないか。やなんかで、しあひへしあひ、をふざまは のやうでにしい。にそんなをじたとて 五とがかるものではない。にいにへばりついてゐたり、いをらうと になるなどれたあさましさである。をけてきながらそのにちがつて で二つのりにぶらさがつてゐるなど[、]なんとなことであらう。はたののにならないやうにと をるはずからはれるになるであらう。

　來にをいたり、のひがらをてたりするのものが 々けられる。がののおと へるやうになることが、それほどしいことであらうか。にきふはてがで ひだとへないものだらうか。や、のや、花がのののやうにに はれないののではないとはねばならない。してやのをけ のをしたものにおいておやである。

　まかりつて のをむのそゝつかしさはにもあるものである。さうがみがみるにも ばないではないか。『すみませぬ』、『いゝえ』で、のきさうなものを てゝみふなど、よくよくのんきなである。

　ほんののだ。おに をり、おににをらうではないか。

1. この文章は一部「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)